



公開セミナー トルコ南東部を震源とする地震から1年 歴史都市アンタキヤの町並み復興を考える



震災前の町並み



地震で崩壊したモスク

2023年2月6日(月)にトルコ南東部を震源とする地震が発生し、甚大な被害が発生しました。古代セレウコス朝シリアの首都アンティオキアであった歴史都市アンタキヤも、文化遺産である多くのモスクや教会が崩壊し、歴史ある旧市街の町並みは壊滅状態となりました。この度武庫川女子大学は、文化庁から令和5年度緊急的文化遺産保護国際貢献事業「トルコ共和国における歴史的市街地の復興に関する国際貢献事業」を受託しました。

本事業では現地調査を踏まえて、どのようにアンタキヤ旧市街の町並みを復興したら良いか、復興案のベースとなる意見書を建築学の立場から作成することを目的としています。その一環として本セミナーでは、カウンターパートであるバフチェシル大学のムラツ・ドゥンダル教授を日本に招聘し、アンタキヤの現況を参加者間で共有するとともに、どのように町並みを復興したら良いかを共に考えたいと思います。



地震で崩壊した通り

日時：2024年 **3月16日** (土) 13:30-15:30

会場：武庫川女子大学 上甲子園キャンパス
甲子園会館 西ホール
〒663-8121 兵庫県西宮市戸崎町 1-13

主催：武庫川女子大学

後援：バフチェシル大学

問合せ：武庫川女子大学 建築学部 larch@mukogawa-u.ac.jp

プログラム

13:30-13:35 開会挨拶
岡崎 甚幸 (武庫川女子大学建築学部長・大学院建築学研究所長 教授)

13:35-14:30 第1部 基調講演
歴史都市アンタキヤの紹介および2023年震災以降のアンタキヤの現状
ムラツ・ドゥンダル (バフチェシル大学建築デザイン学部長 教授)

14:40-15:30 第2部 ディスカッション
発表①アンタキヤの町並み復興を考える その1 建築設計の立場から
柳沢 和彦 (武庫川女子大学建築学部 教授)
発表②アンタキヤの町並み復興を考える その2 建築構造設計の立場から
鳥巢 茂樹 (武庫川女子大学建築学部 教授)
意見交換・質疑

入場無料 事前申込制 ▶
お申し込みはQRコードを読み込むか
右のボタンをクリック→ **申し込み**



対面・オンライン(Zoom) 併用開催